

5 / 7



小学生コンビ「はる3半チャン」のはる3（左）と半チャン。「まいど〜」と大阪弁でM-1を盛り上げた。「優勝賞金1千万円をもらったら友達に1万円ずつあげる」「余ったら貯金します」

4 / 7



M-1に出た「イングリッシュピアノ」のちのちゃんとあやねちゃん。「途中、かみそうになった」が、堂々と笑顔でやりきった。「M-1に出たことは学校のみんなには内緒です」

M-1 キッズ 人生始まったばかりの漫才 動画再生 100 万回

人生、変えてくれ。

M-1 のキャッチコピーは熱すぎる。

来る者拒まず。そんな大会には、いろんな挑戦者が集まる。

人生変えたいやつだけじゃない。人生始まったばかりのやつもいる。

子どもだって、本気だ。

■プロと同じ舞台

「誰もが知っている大会に出られるのは、子どもたちにとってすごい経験になります」

民間学童保育施設「びっぐふぁみりー」(大阪)の古川信園長はそう話す。今年は6組の子どもたちが出場した。

夏には「サマ-1 グランプリ」と称し、お笑いの合宿を敢行。人前で漫才をしたり、審査をしたり。お笑い偏差値を高めて本番に挑んだ。

小6の男女コンビ「アイドルゴースト」も、今年初めてM-1に出た。「会場が広くてびっくり」(ルア)、「人多すぎてちょっと怖くなった」(ミッチーせんぱい)。

マイクとの距離感は？ 視線は相方か客席か？ 戸惑ったが、大きな声でやりきった。

M-1に出る子どもたちはいろいろ。クラスのムードメーカーもいれば、「学校では空気みたいな存在」という子もいる。

共通しているのは、「漫才では何でも言えること」(ルア)。

M-1は自由だ。自分らしく、楽しく。

■聖夜の決戦

子どもたちも憧れの漫才師が登場する決勝戦は12月24日に開かれる。午後6時30分、テレビ朝日系で生放送される。(土井恵里奈)